

# ナラ枯れ被害対策について

## 1 経過

- ・「ナラ枯れ」は、カシノナガキクイムシ（以下「カシナガ」という）が媒介する病原菌「ナラ菌」によりミズナラ等が枯死する伝染病。
- ・道内において、試験研究機関より被害発生危険性が高いとされた松前町及び福島町の1万2千ヘクタールを対象として、令和5年9月、ドローンによる上空からの調査を実施し、松前町及び福島町の一般民有林などで枯れたミズナラ等を9箇所を確認。
- ・令和5年10月～11月にかけて、森林総研北海道支所、道総研林業試験場及び道が詳細な調査を行い、**道内で初めて5箇所15本の「ナラ枯れ」被害木を確認。**

〔 松前町 私有林：7本、町有林：1本  
福島町 私有林：6本、道有林：1本 〕

## 2 被害拡大防止対策

### (1) これまでの主な取組

- ・試験研究機関や北海道森林管理局等で構成する対策会議を札幌市で開催。
  - －令和5年10月 現地調査結果の報告や、被害拡大防止等に向けた今後の対応について検討し、被害木はカシナガが羽化・脱出する6月までに処理を完了させること等を決定。
  - －令和6年3月 令和5年度の被害状況の説明と令和6年度の被害拡大防止等に向けた今後の対策について参加者で共有。
- ・令和5年11月に地元町や森林組合等で構成する対策会議を松前町で開催し、現地調査結果の報告や、被害拡大防止等に向けた今後の対応について確認。
- ・4月に地元町や森林組合等の関係者を対象に、具体的な処理方法の習得を目的として研修会を開催。
- ・**5月20日までに薬剤を用いた伐倒くん蒸及び立木くん蒸処理により、15本全ての被害木の処理を完了。**

(写真1) 研修会の様子（くん蒸方法の説明）



(写真2) 研修会の様子（薬剤の注入）



### (2) 今後の取組

- ・新たな被害木の早期発見に向け、引き続き試験研究機関と連携しながら、**7月～8月に道南地域においてカシナガ生息のモニタリング調査を実施。**また、**8月～9月に松前町及び福島町においてヘリコプターによる上空からの広域調査を重点的に実施。**
- ・被害拡大防止等の検討を進めるため、引き続き試験研究機関や北海道森林管理局等で構成する対策会議を札幌市で、地元市町村や森林組合などで構成する対策会議を被害地域で適宜開催。
- ・道が主催する森林整備関連会議等において、森林組合や林業事業者等の関係者に対して、チラシ配布等による注意喚起と被害状況提供の呼びかけを実施。

# カシノナガキクイムシの特徴

4.5~5.0mm程度の細長いキクイムシ。

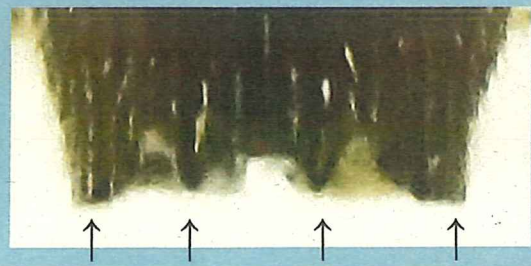
※4.0mm以下（ヨシブエナガキクイムシ）や5.5mm以上（ルイスナガキクイムシなど）であれば別種

♂

♂は前胸背に  
円孔がない



上翅の先端の  
斜面部に突起が  
4つある



♀



前胸背の中央  
付近に円孔が  
5~10個程度  
ある

※他のナガキクイ  
ムシは、円孔を  
持たない

♀は上翅に  
突起がない



5mm